

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190501155), 法人名 (医療法人 愛全会), 事業所名 (グループホーム ハートハウスもいわした), 所在地 (札幌市南区南32条西8丁目1-15), 自己評価作成日 (平成29年10月10日), 評価結果市町村受理日 (平成30年1月19日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0190501155-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月に開設した2ユニットのグループホームです。重度化しても安心して住んで頂ける設備を整え看護師が常勤し、浴室はリフト浴、普通浴室があり入浴をゆったりと楽しむ事が出来ます。トイレには安定して座れる背もたれと腹圧がかけやすい手すりが付いており、日々活用しています。エレベーターも設置しており、ユニット間の行き来を気軽にしています。2階には広いテラスがあり、今年は、2ユニット合同の夏祭りを行いました。天気の良い日にはティータイムを過ごしていただいています。多目的室があり、2ユニットの合同行事やご家族を交えての交流会に使っています。「オレンジカフェ」を平成26年9月から毎月開催し、地域の皆様にも定着しています。グループホーム入居のきっかけにもなっています。藻岩下という自然と人の触れ合いを大切にしている町で、地域の方々のご協力を頂きながら、安心して生活しています。町内会の夏祭りに参加したり、文化展に出品させて頂いたり、子ども会の七夕祭り・御神輿でホームへ来てくれたり楽しませて頂いています。地域に根ざしたグループホームを目指すと共に、入居者様には安心して自分らしい生活を送って頂くことをモットーに、職員は日々自己研鑽に励んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年11月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古くからの住宅地である、南区藻岩下地区に地域住民の期待を集め開設した2階建て2ユニットの事業所である。運営母体である医療法人は、多くの医療・介護・福祉等の施設を運営しており、これまで培ったノウハウと経験を活かし事業所内には随所に工夫が見られる。リビング等の床は、転倒等に配慮してカーペットを敷き、キッチンには利用者が食事作りに参加しやすい様に、アイランド型を採用している。重度化しても入浴が楽しめる様に浴室には、リフト浴やスライド式浴槽を設置し、トイレには、安定した座位を保つことが出来る背もたれと、前傾姿勢を保持することで自然な姿勢での排泄を実現する前受タイプの手すりを設置し、2階には日光浴やお茶会に利用できる広いルーフバルコニーがある。備品庫や倉庫もあり災害用の備蓄品を保管するスペースも確保している、また様々な用途に応じた多目的室を有し、地域との交流を積極的に出来る様に配慮している。常勤看護師が利用者の健康管理をし、看取り介護を経験しており、家族との信頼関係も深めている。福祉のバイオニアとして、サービスの質の向上や近隣住民との積極的な交流に努めている、地域密着型事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、地域の中で自分らしく暮らし続ける事を踏まえた理念を作っています。管理者と職員は、その理念を共有し、日々意識してケアにあたっています。	運営法人の理念・行動指針・事業所の理念を定め、掲示している。自然と人のふれあいを大切にする事業所独自の理念は、パンフレットに明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域の行事(夏祭り、文化展、七夕等)、に参加しています。地域の方がボランティアで蕎麦打ちに来られて3年目になります。近隣の理髪店、美容室も利用しています。小学校のPTA資源回収に協力させて頂いています。	利用者は、町内会行事の夏祭り・綱引き玉入れ大会・文化展に参加し、近隣住民は避難訓練やオレンジカフェに参加している。そば打ち・音楽教室・歌謡ショー等のボランティアの来訪がある。キッチンやトイレを完備した多目的室は、地域や町内に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月開催している「オレンジカフェ」を通して認知症の理解の普及に努めています。運営推進会議で、認知症の勉強会を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、事故、苦情、日常の様子等の報告を行い、ご家族からはケアに対する要望等忌憚のない意見を出して頂き、地域の方からもご意見を伺い、ケアにつなげています。外部評価への取り組みの説明を行っています。	利用者家族・町内会福祉部長・地域包括支援センター職員・まちづくりセンター所長等の参加で定期的に開催している。行事予定と報告・利用者の食事・事故報告・防災について話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、行事報告、事故報告、苦情報告等を行い、協力関係を築いています。市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。管理者は、市や区の管理者会議に参加し情報や知識を共有しています。	行政との連携は、主に法人本部の事業室が担当している。まちづくりセンター所長や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し意見交換しており、管理者はグループホーム管理者会議に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束におけるマニュアルを作っています。法人内年間研修計画の中には身体拘束研修を必ず設定し、積極的に参加し、職員が意識を持ってケアにあたっています。玄関は防犯目的で施錠しているが、イベント時は解放し、普段は気軽に出入りできる環境にしています。	身体拘束や虐待のマニュアルを整備している。事例を基にしなが話し合いをするなど、職員の理解が深まるよう工夫しながら研修を行っている。玄関は防犯対策として施錠しているが、自由な生活を尊重し見守り支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、法人内で高齢者虐待防止法に関する研修会を開き(不適切ケアも含む)、理解、浸透に努めています。法令遵守に関する研修も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は法人内部研修に参加しています。現在、必要のある入居者様はおらず、その都度検討していけるような体勢にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は十分な説明を行い同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で管理者や、職員に気軽に話せる環境を整えています。ご家族、入居者様と、コミュニケーションがとれ気軽に話せています。年に一回、家族アンケートを行い意見や要望を伺いケアに活かしています。運営推進会議でも、ご家族様、地域の皆様の意見を頂き、ケアに反映させています。	運営推進会議には家族が参加しており、家族の来訪時には積極的に話し合いをし、意見や要望は運営やケアサービスに反映している。月一度発行するユニット別の事業所便りには、個々の近況欄を設け担当者が手書きで暮らしぶりを報告している。	家族からの意見や要望を広く収集する場として『意見箱』の設置や、毎日の散歩や買い物等、日常の状況が家族に伝わるような『事業所便り』のさらなる工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所合同の業務カンファレンス、ユニットカンファレンス、ケアカンファレンスを開き、意見や提案を聞く機会を作っています。業務中においても、気軽に意見等を話せる環境を整えています。人事考課時の自己評価でも本人の気持ちを聞く機会を作っています。	定例の職員会議や業務の中で職員の意見や提案を聞いている。また年2回の人事考課時の個人面談で、積極的に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、自己評価の機会があり、個々の努力や実績を把握し、やりがいや向上心につなげています。休み希望等も可能な限りとれ、働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修の年間計画(新人、中堅、管理者)を立て参加しています。新人職員は、新人研修マニュアルに沿って指導をしています。法人外でも、職員一人ひとりの力量に合わせ、実践者研修、管理者研修、コンプライアンス研修等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、札幌市の研修に参加し、交流する機会を作っています。職員は、法人内の研修に参加し、他グループホーム、老健、特養、病院の職員と交流を持ちケアの質の向上に努めています。法人内では年に1回、学術研究発表会を行っており、他施設の研究成果を学ぶことが出来ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成者が事前訪問をし、ご本人、ご家族と面談をして生活状況を把握し不安なこと要望等をお聞きし安心して頂けるようにしています。また、雰囲気慣れていただくため、入居前にお茶会や食事会に参加して頂けることをお話しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、ご本人にどのような生活を送ってほしいかなど、要望等を聞き、信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人、ご家族の思いや、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め、ケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩である事を踏まえ、共に支え合う関係を作っています。買物、料理、食材物品の検品、新聞をたたむ作業など暮らしを共にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、共にご本人を支えていく関係づくりに努めています。ご家族と同じ思いでケアを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご兄弟の来訪時には、居室でゆっくりお話を頂ける環境づくりをしています。ご家族の協力を得て、馴染の場所へ買い物、外食、お墓参り、美容室、ご友人の所に出掛けています。	家族の協力を得て、友人と会ったり、墓参りに出掛けている。町内会行事への参加や行きつけの美容室に行くなどしており、以前からの関係を維持できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や趣味などを職員が理解し、入居者様同士のコミュニケーションづくりに努めています。食事の席など、楽しんで食べて頂けるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人、ご家族のお話を聞き、フォローしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中での言動により、何を望まれているかを感じ、訴えが少ない方でも行動や表情から考えられる思いをくみ取り把握に努めています。	センター方式のアセスメントを活用し、本人本位に検討するようにしている。利用者や家族の希望や要望は記録し、全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを用いて、ご家族様に生活歴等をお聞きし、なじみの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて、一人ひとりの生活のリズム、できる事等を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師、看護師等の意見、アイデアを反映させたプランを作っています。また、必要に応じ、随時カンファレンスを開きモニタリングを行い現状に合ったプランにしています。	一人ひとりの利用者の食事・排泄・睡眠等の状況や、利用者や家族の意見要望を踏まえて、医師や看護師の意見を参考としながら、介護計画の定期及び随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアプランの実践結果、気づきを介護記録に記入しています。それをカンファレンスで職員全員が共有し、ケアプラン作りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院等を柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ、町内の方と挨拶やお話をしたり、野菜を頂いてくることも有りました。今年度も秋の文化展に趣味活動の作品を出展し、見学に行き参加した喜びを感じていただきました。町内の秋の運動会に応援に行き、町内の一員になって応援する喜びを感じていただきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関で受診して頂いています。かかりつけ医には、必要に応じてご本人の体調や様子を報告し関係を築きながら適切な医療が受けられるようにしています。	入居前からのかかりつけ医への受診は、家族対応となっている。運営法人である協力医療機関の医師は、月2回の訪問診療にきており、事業所には看護師が勤務し、利用者の日々の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理相談での看護師のアドバイスと合わせ、看護師1名が常駐しており、迅速なアドバイスを受けることができ、適切な受診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療が出来るようにご本人の情報を提供しています。早期に退院できるように、ご家族、医療連携室の方と、情報の交換に努めています。また、職員がお見舞いに行き、安心して頂けるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」として説明を行い理解して頂いています。医療機関との連携体制を構築し、終末期に向けた支援体制を整備しています。今年度、1件の看取りを行いました。	契約時に、重要事項説明書等で説明を行っている。終末期ケアについては家族と話し合い、チームとして支援体制を整備しており、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で救急救命(AED)講習を行いました。急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応のマニュアルを作成しており、実践につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災のマニュアルを作成しており、防火訓練は統括本部の防災担当課長(元消防署員)の指導の下、年2回(6月、9月)職員全員参加し行っています。6月は、まちづくりセンター所長、包括支援センター職員、ご家族が参加した防火訓練を行ないました。10月9日に職員、入居者様で避難経路と避難場所の確認を行いました。非常用備蓄品・避難時持ち出し用品を用意しています。事業所内研修で災害時の対応について11月に行う予定です。	火災以外の、地震や水害を想定した防災訓練を実施し、事業所独自でシミュレーション訓練をしている。災害時の対応についての研修や勉強会で、万が一の災害に備えている。さらに地域との連携や協力体制を築くよう取り組んでいる。食料や寒さ対策の備蓄品は用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員としての「接遇」研修を受け、常に入居者さま本位のケアを心がけています。ご本人の気持ちを大切に考えた言葉がけをしています。	利用者の人格を尊重し、個々の状態に合わせた声掛けや対応に気をつけている。個人情報については取り扱いには十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、起床時間、就寝時間、洋服選び、飲み物のご希望をお聞きしたり、入居者様に合わせて声かけをしご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの気分や気持ち、体調に配慮しながら、ご本人のペースを大切にし、ご希望にそって過ごして頂けるように努めています。(食事、就寝起床時間、散歩、入浴、買い物、テレビ番組の選択等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、お一人おひとりに合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう声かけをしています。出来ない方にはお手伝いをしています。外出時やイベント時にはお化粧や、ネイルをされる方がいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや、病状に配慮した食事をして頂いています。また、食事の準備や後片付けを職員と一緒にすることでコミュニケーションがとれ、食事に対する楽しみにつながっています。週一度の自主メニューの日は、入居者様の希望を取り入れたり、誕生会や季節の行事の食事なども工夫しています。	利用者が、食事作りに参加しやすい様にアイランド型のキッチンを採用している。職員と共に食卓を囲み、談笑しながら和やかに食事しており、食事が1日の楽しみとなっている。誕生日には、利用者の好みを反映した料理でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い食事を食べて頂いています。お一人おひとりの好みや病状に配慮しています。1日を通じて水分確保できるように表に記入し毎日個人データ表に転記しています。習慣に応じて、パン食や粥を食べられる方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いています。お一人おひとりの力に応じて、声かけや、見守り、お手伝いをして口腔ケアをしています。定期的に歯科医の口腔ケアを受けている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを考え、職員がさりげなく声かけお誘いして、気持ちよくトイレで排泄が出来るよう支援しています。尿意の表現ができない方には、表情や行動から、さりげなくお誘いしています。	トイレでの自立排泄を支援しており、紙おむつの使用量が減った利用者がある。安定した座位が保たれる背もたれや、前傾姿勢を保持することで自然な姿勢での排泄を実現する前受タイプの可動式手すりを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排便のリズムを理解したうえで、飲み物の工夫(野菜ジュース、牛乳、ヨーグルト、ヤクルト、オリゴ糖)や食べ物の工夫(繊維の多い野菜)、運動をして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望を聞き入浴して頂いています。入浴剤を選んで頂き、香りや色でリラックスして頂いています。又、身体状況に合わせてリフト浴等も行っています。	利用の希望に合わせた入浴支援を行い、入浴剤などを工夫し入浴が楽しみとなるように取り組んでいる。重度になっても入浴が楽しめる様にリフト浴とスライド式浴槽を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活のペースで休息、就寝して頂いています。安心して眠れるような声かけや、湯たんぽを使用したり、ホットミルクを飲んで頂いています。眠りやすい環境(居室の灯り、温度、湿度、音)を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの使用している薬について、処方情報から職員は理解をしています。服薬マニュアルに沿って服薬して頂き、症状に変化が無いか確認を行っています。又、ご自分で服薬しやすいように、薬杯カップを使用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが好きなことや得意なことが活かせるようにアセスメントし、行って頂くことで気分転換にもつながっています。(散歩、体操、ことわざ、カラオケ、布巾縫い、調理、食器洗い、掃除、入浴、読書等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのその日の希望に沿って近隣の小学校や公園に散歩に出掛けたり買い物に行っています。天気の良い日は、庭での昼食やテラスでのお茶会を行っています。又ご家族と協力し、自宅訪問や外泊、入院されているご主人に会いに行ったりしています。地域の方々にはお祭りや文化展、運動会に誘っていただいたり、美容室では送迎のサービスをして頂いています。	一人ひとりの希望に応じて、買い物・散歩・ドライブ等、利用者と相談しながら外出支援をしている。2階のルーフバルコニーは、日光浴や外気浴等憩いの場として使用している。事業所の行事として、遠出の外出や戸外での催しごとが計画的に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している方がほとんどですが、ご自分でお財布を持っている方もいます。職員と一緒に買い物に行ったときは支払いをお願いすることもあり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と協力して声の聴きたいときに気軽に掛けられるように支援しています。ご家族やご友人からの電話や、ホームから連絡がある時はご本人とも代わりお話しして頂いています。贈り物が届いた時など、お礼がてら子機を使用し居室等でゆっくりと話して頂く時もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔保持を心がけ、リビングには花を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫をしています。職員が業務で発する音、会話等、入居者様に不快感をあたえてしまう音が無いよう配慮しています。	居間はゆとりがあり、美術品や利用者の作品を飾り癒しの空間となっている。事業所全体が、利用者の安全と介護者の動線を考慮した造りになっており、床はカーペット敷きになっている。2階には広いルーフバルコニーがあり、夏祭りや天気の良い日の日光浴・ティータイムに利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他に、ソファを配置し、他入居者様と話したり、ゆっくりとテレビが見れるようにしています。又、リビングから離れたところに椅子とテーブルを配置し、一人で過ごす場所もあり、利用して頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら家具やベッドなど使い慣れたものや好みのもの、使い心地の良いものを持ってきて頂いています。写真や趣味のものを飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫をしています。	居室には収納場所があり、壁紙も部屋間違いに配慮して各居室で変えている。家族とともに危険箇所がないか点検を行い、安全に居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの分かる力を見極め、文字の大きな手作りカレンダーを目に入りやすい場所に設置しています。必要に応じて居室、トイレに名前を付け工夫をし、環境整備をして安全に生活できるようにしています。		